



関東ロードミニ選手権 2024 RIDING SPORT CUP

競技規則書

—レギュレーション—

更新：2024.8.13

桶川スポーツランド株式会社 (MotoUP 桶川スポーツランド)

当規則の無断転載・無断使用は固くお断りいたします。
流用などをご希望の方はご相談下さい。

第一章 大会概要と競技規則

1 競技会名称

関東ロードミニ選手権 2024 RIDING SPORT CUP

2 主催、後援、協賛

主催・会場 / 桶川スポーツランド株式会社 (MotoUP 桶川スポーツランド)

〒363-0027 埼玉県桶川市川田谷上野 7921-3 TEL.090-3234-8888 web <https://okspo.jp/>

後援 / RIDING SPORT

協賛 / 各戦ごとに大会公式プログラムにて発表

関東ロードミニ選手権 2024 RIDING SPORT CUP 開催概要

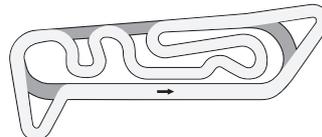
予選タイムアタックによりグリッドを決定し、7~12周のスプリント方式にて決勝レースを行う二輪競技会。全6戦でシリーズチャンピオンを決定する。RIDING SPORT CUPとして開催される。本大会は、社会全体にモータースポーツが認知されるとともに、ライダーの健全な発展を願うべくモータースポーツ振興の一端に貢献することを目的とする。

大会組織

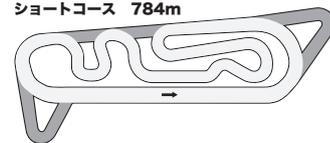
- 競技長 鎌田 悟 (桶川スポーツランド)
- コース長 川島和明 / 今野由寛 (レース当日発表)
- 計時長 目黒 正顕 (桶川スポーツランド)
- 事務局 松崎彩子 (桶川スポーツランド)
- 救護 竹口謙太郎 (ももたろう鍼灸院整骨院)
- 写真撮影 澤野 将、桶川スポーツランド 他

使用コースレイアウト

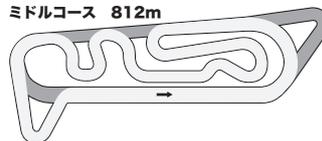
ロングコース 840m



ショートコース 784m



ミドルコース 812m



ロングコースとショートコース、ミドルコースを交互に開催する。

桶川スポーツランド 公式ロゴ



桶川スポーツランドの公式ロゴを装備品、マシンに使用する場合は、桶川スポーツランド事務局及びオンラインショップにて販売しているものに限り自由に貼付し使用できます。個人やショップ単位での複製使用は禁止です。



関東ロードミニ選手権 大会公式ロゴ



関東ロードミニ選手権の公式ロゴは大会参加者、関係者が自己サイトやブログ、企画書等にて自由に使用できます。色の変更はブルー系党、白、黒のみ可。

販売品やそれに準ずる商用利用や、無断使用はご遠慮ください。ロゴの分割や二次加工はしないでください。

3 開催クラス

シリーズ表彰は下記年間表彰のマークがあるクラスのみ対象となるが、年間通して規定の台数に満たなければ対象から外れるものとする。(詳しくは 第一章 12. シリーズ表彰を参照)

クラス名	参加車両	参加対象	エントリーフィー
年間表彰  エスピーエキスパート  エスピーミッド  エスピーフレッシュマン	2st50cc/4st100cc 準改造車 (NSR50/ NSF100/NS50R 等)	MID クラスでの優勝または年間ランキング 3 位以上の実績を持つ者。 (他クラス、他コースでの上級者は要相談) '23 までに当クラスに参戦経験がある者。 ★最低重量 2st=125kg/4st=128kg ----- ロングコース 46-47 秒台 / ショートコース 39-40 秒台 / ミドルコース 43-44 秒台該当者。 EXP への昇格については任意とし上記の参加対象を参照。協議のうえクラス降格も可。 ★最低重量 12 インチ = 123kg 17 インチ = 125kg (ホイール径) ----- ロングコース 47-48 秒台 / ショートコース 40-41 秒台 / ミドルコース 44-45 秒 台該当者。当クラスで優勝した者は SP-MID へ自動昇格。 ★最低重量 12 インチ = 120kg 17 インチ = 122kg	(マイボンダー) ¥7,700 (ボンダーなし) ¥8,700
年間表彰  エスハチゴーアンド ミニジービーサテライト	2st85cc/4st150cc 未満の 改造車及びまるち杯 OPEN、 S1-GP、 FIM MiniGP Japan 対象車。	今季より年齢によるクラス分けを廃止し S85/MiniGP 車両での混走別表彰とする。	(マイボンダー) ¥7,700 (ボンダーなし) ¥8,700
年間表彰  インポートミニ エキスパート  インポートミニ ミッド  インポートミニ フレッシュマン	4st 125cc 17inch インジェクション仕様車 (CBR125R・YZF-R125・ RS4125・RC125・ GSX-R125 等)	MID クラスでの優勝または年間ランキング 3 位以上の実績を持つ者。 (他クラス、他コースでの上級者は要相談) '23 までに当クラスに参戦経験がある者。 ----- ロングコース 46-47 秒台 / ショートコース 39-40 秒台 / ミドルコース 43-44 秒台該当者。 EXP への昇格については任意とし上記の参加対象を参照。 協議のうえクラス降格も可。 ----- ロングコース 47-48 秒台 / ショートコース 40-41 秒台 / ミドルコース 44-45 秒台 該当者。台数バランスをみて他クラスと混走別表彰。MID クラスの目安タイムを満た して優勝した者は次戦より自動昇格。	(マイボンダー) ¥7,700 (ボンダーなし) ¥8,700
年間表彰  HONDA NSF100 ワンメイクレース	HONDA NSF100 ワンメイクレース	詳細は HRC のサイトを参照。 当大会では 18 未満の Jr と 18 歳以上の成人とでクラス分けをし混走別表彰にて開催。	(マイボンダー) ¥7,700 (ボンダーなし) ¥8,700
年間表彰  アドバンスのみ	HONDA GROM ワンメイクレース	詳細は HRC のサイトを参照。なお、音量測定に関しては当規則に準ずる。 ◆アドバンス：ロングコース 46-48 秒台 / ショートコース 39-41 秒台 / ミドルコース 43-45 秒台該当者。 ◆ルーキー：ロングコース 49-52 秒台 / ショートコース 42-45 秒台 / ミドルコース 46-49 秒台該当者。桶川グロムカップクラスと混走別表彰。	(マイボンダー) ¥7,700 (ボンダーなし) ¥8,700
 オケガワ グロムカップ	当規則 2-1 総合規定を 満たしている GROM。 エンジン内部の改造不可。	目安としてロングコース 48.0 秒 / ショートコース 41.0 秒 / ミドルコース 45.0 秒以上 ラップタイムのかかる者。同一車両を使っての他クラスとの W エントリーは不可。 (エキシビションは可)	(マイボンダー) ¥7,700 (ボンダーなし) ¥8,700
 トライアウト	当サーキットのミニバイク スポーツ走行規定に準ずる 市販車で、当規則 2-1 総合規定を満たしている車両	ロングコース 48-50 秒台 / ショートコース 41-43 秒台 / ミドルコース 45-47 秒台該当者。 当クラスの目安タイムを超え優勝した者は上位クラスへ自動昇格。 同一車両を使っての他クラスとの W エントリーは不可。(エキシビションは可)	(マイボンダー) ¥7,700 (ボンダーなし) ¥8,700
 ノービスミニ	当サーキットの ミニバイクスポーツ走行 規定に準ずる車両。 当規則 2-1 総合規定を 満たしていることが望ましい。	■ノービスミニ A... ロングコース 50-51 秒台 / ショートコース 43-44 秒台 / ミドルコース 47-48 秒台 ■ノービスミニ B... ロングコース 51-52 秒台 / ショートコース 44-45 秒台 / ミドルコース 48-49 秒台 ■ノービスミニ C... ロングコース 52 秒台 ~ / ショートコース 45 秒台 ~ / ミドルコース 49 秒台 ~ 予選にてタイムと台数バランスを見てクラス分けをし、混走別表彰で争われる。 同一車両を使っての他クラスとの W エントリーは不可。(エキシビションは可) なお当日発表される基準タイムを決勝中に上回った場合、該当周回に +5 秒の ペナルティが科される。	(マイボンダー) ¥6,700 (ボンダーなし) ¥7,700

上記にないクラスでも開催の要望があり一定以上の参加台数 (10 台程度) が見込める場合、特別にクラスを開催する場合がある。
 例) M クラス、アドレスカップ、SP17、OPEN 等

■ワイルドカード参戦

SP、インポートミニの下位クラス (MID、F) 優勝者は、当日の上位クラス決勝への最後尾グリッドからの参戦権が与えられる。

参戦希望者は当該決勝終了後速やかに車検テントのオフィシャルへ申告すること。

なお、ワイルドカード参戦の場合は上位クラスの規則に従うこと。車両保管も上位クラス終了後に行うため、エンジンメンテなどの重整備は禁止とする。

4 開催日程

第1戦 2/25 (日) ロング (新) コース開催

第2戦 4/21 (日) ショート (旧) コース開催

第3戦 6/30 (日) ミドルコース開催

第4戦 8/25 (日) ロング (新) コース開催

第5戦 10/20 (日) ショート (旧) コース開催

第6戦 12/15 (日) ミドルコース開催

5 参加資格

常識を持ち、スポーツマンシップにのっとった行動ができるもの。桶川スポーツランドの利用規則及び関東ロードミニ選手権の開催目的や規則を熟知し順守できる者。

桶川スポーツ安全保険もしくはライディングスポーツメンバーズに加入しているもの。18歳未満の者は親権者の参加同意書が必要。開催クラスにより年齢制限を設けているが、該当しない年齢の者でも競技長が特別に認めた場合のみ出場できる。

6 参加者の遵守事項

すべての参加者は、競技開催中はオフィシャルの指示に従うこと。

- ・当レギュレーション及び当日配布されるプログラムを熟読している事。
- ・競技中の飲酒はしない。コースからの行き帰りにも飲酒運転をしないこと。
- ・日頃より薬品等で精神状態をとりつくるっていない事。・ビットロードおよびパドックでは、喫煙及び火気を伴う器具を使用してはならない。
- ・参加者の状態に何らかの異常がある場合は参加及び走行が認められない場合がある。

7 参加申し込み方法

桶川スポーツランドでの直接申し込み、現金書留での郵送、HPからのネットエントリーのいずれかとする。

エントリーは各レース1ヶ月前～開催一週間前までとし、それ以降のエントリーは一切受け付けない。いずれも大会が指定する有効な保険に加入していなければならない。

当レースではプログラム/リザルトの記載上ニックネームでの参加を認めているが、エントリー名に実在する他人の名前を使用する行為は禁止とする。

(保険に関しては第一章 19 参照) ※ネットエントリーに関してはHPをご確認ください。

★年間エントリー制度

年間エントリーとは指定されたクラスの第1戦～第6戦までの全戦まとめて申し込みを行うことを言い、

これは開幕戦前のエントリー締切日までにエントリー手続きをすべて完了しているものを指す。エントリー期間はWEBサイトにて発表。昇格対象クラス以外のシーズン中のクラス変更及びチーム名など、エントリー情報の変更は一回までとする。

■年間エントリーの方法

指定の申込用紙に必要事項を記入し、事務局に該当クラスの全開催分のエントリーフィーとともに提出する。(WEBエントリーも可)

怪我などでやむを得ず出場できなくなった場合でも、エントリーフィーの返金は不可。

また、年間エントリーの権利を他者に譲ることはできない。

8 エントリーフィー (参加料金) ★なお、エントリーするにあたり、桶川スポーツ安全保険もしくはライスボメンパーズの加入が必須の為、別途保険料が必要となる。

【通常エントリー】

■ノービスミニクラス……マイポルダー有 (¥6,700) マイポルダー無し (¥7,700)

■その他のクラス……マイポルダー有 (¥7,700) マイポルダー無し (¥8,700)

※ダブルエントリーの場合合計金額から1,000円控除。

※一人のライダーが同時に3クラス以上のレースにエントリーする事は、安全面を考慮し認められない。

※2023年のシリーズランキングにより割引となる場合がある。詳細はランキングカードの裏面に記載。

※締め切りを過ぎた後のエントリーフィー支払いは、レイトフィーとして1,000円が加算される。

(注: 締切日が1週間前の日曜日なので、日曜にネットエントリーをした場合は月曜午前10:00の着金まで通常料金)

※エントリー手続きのみを済ませ参加料を支払っていない状態で締切後にキャンセルをした場合、次回以降のエントリーが制限される場合がある。

【年間エントリークラスと金額】

ノービスミニ、その他エキシビジョンクラスは年間エントリー不可。

総額より3,000円引きが適用される。

(例) SP-EXP (マイポルダー無し) の場合 総額 52,200-3,000=49,200円

(例) SP-EXP (マイポルダー有り) の場合 総額 46,200-3,000=43,200円

【遠征割】

関東地方 (茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県) の1都6県以外からのエントリーはエントリーフィーから2,000円引きとなる。

※上記の判断はあくまで参加者本人のエントリー時点での居住地を基準とし、住所の虚偽等が見受けられた場合は参加が拒否され、当サービス自体を一切廃止する。

9 クラスわけ

各クラスエントリー台数がフルグリットを超えた場合、練習・予選をランダムに2クラス分けした上で決勝はA、B決勝にクラス分けしてレースを行う。

・27台以下…1レース

・28～51台…2レース（A、B決勝）

台数の片寄りを防ぐ為、エントリー台数が28～37台の場合は予選上位65%をA決勝、それ以外をB決勝としてレースを行う。
(小数点以下切り捨て)

・38台～51台の場合は、予選上位24台をA決勝とし、残りがB決勝となる。

なお、B決勝の上位3名のライダーには、A決勝への出走権が与えられる。(任意参加)

B決勝の周回数 (A決勝の2/3 小数点以下切り捨て)

A 決勝	B 決勝	A 決勝	B 決勝
15周の場合	10周	10周の場合	6周
12周の場合	8周	7、8周の場合	5周

10 不成立

各クラスのエントリーが5台以下の場合には当該レースは一旦不成立扱いとなる。これは開催1週間前のエントリー台数での判断となり、開催当日の台数ではない。不成立扱いとなったクラスは中止（エントリーフィー返金）もしくはその他のクラスに混走となり、参加者と協議の上で決定する。

11 賞典

賞典対象は各クラス決勝出走台数※1をもとに下記のように制限し、決勝完走者※2に与えられる。

なおシリーズ中のエントリー名の変更は原則として認められず、ポイントが加算されない場合がある。

※1 決勝出走台数＝レーススタート以降の出走

※2 決勝完走者＝優勝者の周回数の75%（小数点以下切り捨て）以上を走行した者

■ポイント加算制限

順位	台数	6台以上	5台以下
1位		20	10
2位		15	7.5
3位		12	6
4位		10	5
5位		8	4
6位		6	
7位		4	
8位		3	
9位		2	
10位		1	

表彰

・3台以下……1位のみ

・4～5台……2位

・6台～11台まで……3位

・12台以上…6位

ごくまれに賞典外の選手が出場することがあるが、

その場合賞典外選手は参加台数に含まずに賞典・ポイントを割り当てる。

例) 決勝出走台数12台のレースで、賞典外の選手が3名いた場合

12台から3台差し引き台数を9台と数える。つまり3位までが表彰される。

12 シリーズ表彰

シリーズ表彰対象クラスは3位までが年間表彰され、翌年の走行料金やエントリーフィーが優遇される。

※5台以下の決勝レースがシリーズ中に2回以上あったクラスは一位の選手のみ表彰される。2台以下の決勝がシリーズ中に2回以上あったクラスのシリーズ表彰は行わない。最終戦では1.25倍のポイントが加算される。

★シリーズランキングは、年間で獲得したポイントの合計により、最多ポイント獲得者をシリーズチャンピオンとする。賞典外選手が出場した場合は、第10章-賞典と同様に扱いポイントを振り当てる。

同ポイントの場合は

1). 優勝回数の多い者 2). 上位獲得回数の多い者 3). 最終戦上位の者 4). 参加回数の多い者

5). 予選上位獲得回数の多い者 6). 前年の成績上位の者

の順で順位を決定する。

上記でも決定出来ない場合は、MFJ国内競技規則に準ずる。

13 再車検

レース終了後、指定クラスの入賞車両は暫定リザルト掲示後 30 分間保管され、その間に異議申し立てがあった場合のみ当該クラスの分解車検を行う。呼び出しのあったクラスの該当ライダーは、コースインゲート右脇の再車検場に集合する事。再車検により違反が見つかった場合は、当該レースを失格とし、以降のレースの出場に関しても制限される。

14 抗議

抗議できる権利を有しているのはライダー本人であり、他者からの抗議は一切受け付けない。抗議する場合はいかなる場合でも抗議保証金 10,000 円を添えて競技長に提出すること。抗議保証金は競技長の判断により返還される場合もある。

15 ペナルティー

ライダー、ピットクルーは大会規則、大会役員の指示に従い違反行為のあった場合に課せられたペナルティーに関しては抗議できない。その他の記載されていない事柄に関しても大会役員の判断によりペナルティーとなることがある。すべての違反行為については競技長の判断を最優先とする。

種類	ペナルティー
フラッグ無視※1	厳重注意またはタイムの加算または失格
ジャンプスタート(フライング)※2	ライドスルー or 競技結果 30 秒加算
ショートカット路の使用	予選→ベストタイム1秒加算 決勝→リタイヤ扱い
ランオフからの有利/危険なコース復帰	予選→当該ラップタイム抹消 決勝→競技結果30秒加算
ストレート外側白線カット	厳重注意またはライドスルー
危険行為	厳重注意またはタイムの加算または失格
ウェイト脱落・重量不足	予選→決勝最後尾スタート 決勝→失格
音量オーバー	朝車検=決勝最後尾スタート 決勝後車検=失格
重量測定不通過	予選→決勝最後尾スタート 決勝→失格
ノービスミニ基準タイム超過	該当周回に5秒加算
その他	大会役員・競技長判断による

※1 例：黄旗区間の罰則

- ・追い越し = 3 ポジション加算
- ・コースアウトまたは転倒 = 予選 → 1 秒加算 決勝 → 1 周以上の減算
- ・事故 = 失格および次戦出場停止

※2 レッドシグナルが点灯して消灯するまでの間にマシンが前進した場合、ライドスルーもしくは競技結果に 30 秒加算のペナルティーを課す。ライドスルーボードにて指示されたゼッケンのライダーは安全なスピード (1 速 / 30km 以内) でピットレーンを通る事。この際に速度超過と判断された場合ライドスルーが繰り返される。ライドスルーボードが 3 回掲示されても従わない、及び速度違反により 3 回のライドスルーが実行されたと認められない場合は失格となる。

なお、左記のペナルティーに該当する者のコースレコードは認定されない場合がある。

16 レースの中断、再開

やむを得ない事情により競技の続行が危険であると大会役員が判断した場合、赤旗及びレッドシグナルの掲示により走行が停止される。

・赤旗中断となったレースがスタートから 3 周未満の場合、当該レースは無効とされ、車両確認に要する時間を設けたうえ周回数を 2/3 に減算し再レースが行われる。このレースのグリッドは予選結果に基づき全ライダーが参加出来る。罰則も消滅する。

・スタートから 3 周以上 2/3 未満 (小数点以下切り捨て) の周回数を消化していた場合は、予定周回数から赤旗掲示された時点 (半数以上のライダーが通過した時点) での周回数を引いた残りの周回数で第 2 レースを行う。なおこのレースのグリッドは第 1 レースの結果に基づき、第 1 レースでトップの周回数の 75% 以上を走行していたライダーだけが再スタート出来る。第 1 レースで消化していない罰則があった場合それが適用される。最終結果は各レースの周回数を合計し、最多周回数のライダーが優勝者となる。同一周回の場合は最終レース結果が優先される。

・再レースが不可能な場合は予選もしくは第 1 レースの順位を最終結果とし、ハーフポイントが与えられる。
・予定周回数の 2/3 以上を半数以上のライダーが消化していた場合、当該レースは成立したものとする。
※ 2/3 の周回数は第一章 -9 の表を参照。

17 主催者側の権限

主催者は理由を明かすことなく参加を拒否できる。大会に関する参加者、同業者及び肖像権や音声、写真、映像等に関する権限は主催者にあるものとし第 3 者に対してその使用を許可できる。

18 中止

天候などにより中止になる場合は事務手数料 1,000 円を引いた金額を返金する。(チャンピオンは除く) 年間エントリーは 500 円を引いた金額を返金とする。ただし中止の決定は主催者がするものとし、第三者は決定できない。(原則として当日現地で発表となる)

19 保険制度

参加者は**桶川スポーツランドスポーツ安全保険もしくはライディングスポーツメンバーズ**に加入してはならない。

上記の保険は、桶川スポーツランド・チームライディングスポーツが設立した保険団体であり、『(財)スポーツ安全協会』が運営する『スポーツ安全保険』に加入し、登録競技者、イベント参加者の不慮の事故に対して補償するものとし、関東ロードミニ選手権エントリー時には加入が必須となる。

※保障期間の関係により、開幕戦のみ2023年度の保険が適用され、2戦～最終戦には2024年度の保険加入が必要となる。
レース当日怪我を負った場合は救護室にて手当を受け、事務局で事故申請書を受け取ること。救護室での当日の処置記録が無い場合、原則として保険の申請は出来ないものとする。桶川スポーツランドスポーツ安全保険及びライディングスポーツメンバーズの詳細、加入方法、補償額などについては別紙参照の事。

20 重量制限

3. 開催クラス表に最低重量が記してあるクラスの予選・決勝終了後は、車検場前にて車両+ライダー本人+装備一式の合計重量が測定される。重量調整に用いるウエイトは、容易に脱落・破損しない様、取り付け方法及び位置、材質等に十分注意する。また、取り付けの際は原則としてボルト・ナット固定を基本とし、ステーを介す場合は重さや振動等に耐えうる強度を考慮する事。テープやタイラップのみでの固定は禁止される。

各クラスの最低重量については第一章-3、ウエイトに関するペナルティーについては第一章-15 参照。

21 参加者の装備

■必須

- ・フルフェイスヘルメット……JIS T8133・2種以上のものか、それと同等以上の安全性を満たしているもの。(MFJ 公認及び SNELL 規格推奨)
- ・ヘルメットリムーバー……市販のバイクヘルメット用であればメーカー自由。
- ・レーシングスーツ……MFJ 公認である事。(12 歳以下除く)
- ・レーシンググローブ、ブーツ……皮製でプロテクション機能が備わっているおり、いかなる体勢でもレーシングスーツと 50mm 以上重なり合うもの。
- ・脊髄パッド…レーシングスーツの下に装着し脊柱保護に効果的なもの。ただしエアバッグ一体式として装備がある場合は免除となる。(CE-EN1621 適合品)

■推奨

- ・チェストプロテクター・エアバッグシステム……装着を推奨。コースや年齢によって必須の場合がある為注意する事。なお転倒によりエアバッグが開いた状態での競技続行は危険なため、ピットインし改善したのちに再コースインすること。

上記適合品であっても著しい破損や汚損がある場合は使用を認めない場合がある。その他ウェアラブル端末や走行に支障をきたす恐れのある上着などは不可。

22 使用燃料

一般のガソリンスタンドで購入出来る無鉛ガソリンである事。AV ガス、レースガス等の一般市販車以外への使用を目的とした燃料の使用は禁止。2st 車両に限り 2st オイルの混合を認める。ガソリン及びオイルには、オクタン価や燃焼効率を高める添加剤や起爆剤などを加えてはならない。また燃料を故意に冷却する行為は禁止とする。

23 パドック駐車規定

■ポイントランキングに★印のあるライダーが当該クラスに参加する場合、指定の優先パドックに駐車する権利がある。(※指定パドック=コース最終コーナー側パドック最前列)

■年間エントリーを行い抽選にて選出された 20 名のライダーには、最終コーナー側 13 台分と、カレーハウス脇 7 台分のパドックが割り当てられる。なお、年間エントリーを行ったライダーが止むを得ずレースに参加出来ない場合は、他ライダーにパドックを譲渡する事が出来る。

■レース前々日の金曜日は 17 時より翌日土曜のゲートオープン待ちが認められ、その方法はトランスポーターに運転手が乗車している停車状態のみ可とする。17 時以前の停車及び自動車や物を置いてのゲートオープン待ちは禁止され、違反した場合翌日のゲートオープン時は最後尾での入場となる。金曜の営業時間後はスタッフが常駐していないため、他の参加者や釣り人、近隣住民などへ迷惑とならないよう参加者間で互いに注意のこと。

■レース前日の場所取り可能時刻は、原則として 15:00 からとする。15:00 前に場所取りがあった場合、予告なく当施設スタッフが撤去する。なお、天候が安定しない状況の際は場所取り開始可能時刻が早まる場合があり、その発表は当日現地で行われる。

■場所取りが認められるのは、当日現地に来ている参加者本人またはその参加者本人によって定められた代理人 1 名とする。

■場所取りの際は、各自置いて帰る物の見やすい位置に、翌日開催されるレースの参加受理書を貼付し提示しなくてはならない。ネットエントリーの場合は、受理メールを印刷した物を提示するか、受理書の代わりに事務局にて発行される許可書を提示する事。この場合の券の配布は 1 人 1 枚までとする。受理書または許可書の無い場所取りに関しては無効とみなし、当施設のスタッフが撤去する。許可書に氏名等情報が明記されていない物に関しても無効とする。また、重複した受理書や許可書を作成し余分な場所取りをする行為は、当該ライダーの全ての場所取りを撤去する。

■場所取りの品にタイヤを使用する事は、投棄の原因となる為禁止。

■レース当日は、朝 8:00 まで競技車両搬入車及び参加者本人の車以外、場内への駐車を禁止する。(オフィシャルや出店者、主催者が認めた関係者を除く)

【補足事項】レース前日の車中泊に関して

レース前日より場内にトランポを駐めての車中泊を認めます。

禁止行為などがあった場合は次戦の前日から場内車中泊を禁止としますので、参加者同士でマナー良く使用してください。特に近隣住民の方に迷惑をかけるような行為が見られた場合には桶川スポーツランドの営業自体にも支障をきたす恐れがある為、各自気をつけて使用してください。

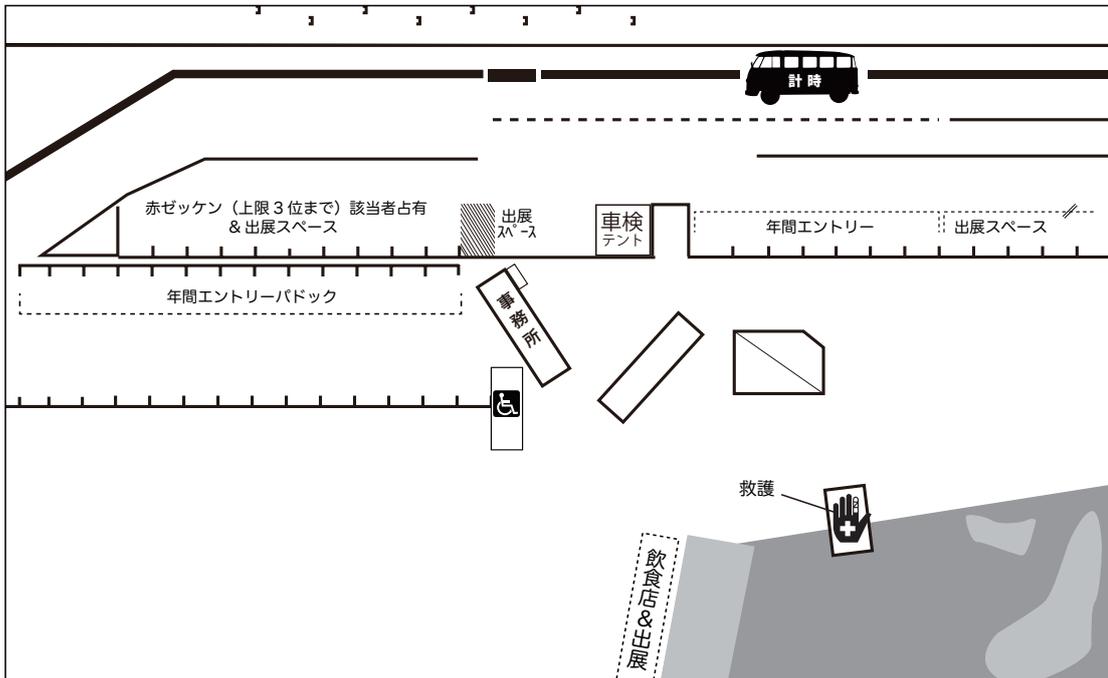
【車中泊のきまりと諸注意】

- ・夜間コースに入ることは禁止します。
- ・20:00以降、場内または桶川スポーツランド近辺で競技車両のエンジンをかけたり、騒音になる行為（カーステレオなどを大きい音でかける、花火をする等）は禁止します。
- ・場内、場外での焚き火、花火は禁止。火気を使用してのバーベキューなどは安全を考慮した上でスタッフ指定の場所で行って下さい。
- ・飲酒運転など法律によって禁止されている行為を参加者同士で監視し、問題がないように使用して下さい。
- ・ごみの放置は絶対にしないで下さい。

レース前日は桶川スポーツランドスタッフが1名場内に居りますが、各種対応は20:00までとさせていただきます。

【指定の駐車スペースについて】

・前年ランキング上位者、年間エントリー者、出展者には予め駐車場所を指定しています。出展の駐車スペースについてはレースウィークにウェブサイトで告知されます。



24 ウェット及びドライレース

天候による路面状況の変化または可能性があり危険と判断された場合、競技は一時中断され ウェットレースが宣言される。その場合タイヤ交換等に要する一定の時間を設けた上で競技は再開される。ウェットレース宣言以降のタイヤ選択は各自の判断に一任するものとし、路面状況の変化によって競技が中断される事は原則として無い。宣言のない場合全てドライレースとする。

ウェットレースの場合のみ、アンダートレー装着車はグロメットを取り外す事。(第二章 車両規定 M クラス 2-1 参照)

25 スペアマシン

車検にて合格印を受けられる車両は各クラス 1 名につき 1 台とし、スペアマシン (Tカー) の登録は認められない。トラブルによる車両の著しい破損及びフレームやエンジン交換が必要となった場合は、競技長へ報告し再度車両検査を受ける事。

26 ウェイティングとコースイン

競技の円滑な進行のため、参加者は前クラスのコースイン完了後からウェイティングエリアでの待機が認められる。ただし、ウェイティングエリアでのタイヤウォーマー及び発電機の使用は禁止とする。

決勝でのコースインゲートの開放時間は2分間とし、これに間に合わなかった場合は全車がレーススタートを切り 1、2 コーナー通過以降のピットスタートとなる。

なお決勝レース前のサイティングラップ及びウォームアップラップのキャンセルは認められない。

第2章 車両規定

本車両規則はローコスト、イコールコンディションを目指し、2st/4st、KIDS～大人、入門者～上級者まで異なる目的を持った参加者全てのバランスを考慮し作成されている。

レース前車検での主催者側の判断には、その解釈のすべてに対していかなる場合でも参加者は抗議を申し立てられない。車両規則に反したものは、主催者判断で当該シリーズの出場停止処分を課す場合がある。

2-1 総合規定（全ての車両に該当する規則）

- ブレーキは前輪後輪それぞれ独立した、効果的な制動力を持つ物を備えなければならない。
- ハンドルは左右一杯に切ったときにライダーの指を挟まないようにハンドルと燃料タンク、カウリング等に間隔を保持すること。また、ハンドルの先端にはパーエンドもしくは非貫通タイプのグリップが装着されている事。アクセルは手を離れた際、自動で戻らなくてはならない。
- クラッチレバー・ブレーキレバー・グリップレバーの変更は可。ただし、レバー先端は丸み（最低直径 14mm 以上）を持たせなければならない。
- ステップバー・ペダル類の先端は、安全上先端が中空でなく、丸みを帯びた形状でなければならない。
- 走行中明らかに路面と車両の一部が接触している場合は、その部分を切除する等の対策を施す事。（サイドスタンド、ステップ周り、カウル等）
- 取り外さなければならない物は、バックミラー・スタンド類・フロントバスケット・リアキャリア等。また、ヘッドライト・テールランプ・ウィンカー等は、取り外すかテープングを施さなければならない。
- カウルなどではずした場合は、全てのカウルステーもはずす事。その際のフレームの加工は最小限の不要ステーの切削のみ可。
- オイルドレーンボルトおよび給油口（エンジンオイル・ミッションオイル）は、必ずステンレスワイヤーを用い、ボルトに通して緩まない方向に引っ張り、端をフレーム等に固定してワイヤーロックを施すこと。ドレーンボルトの改造、変更は可。
- 燃料タンクにブリーザーパイプがある場合は、必ず透明または半透明のキャッチタンク（100cc 以上）を取り付けるか、ワンウェイバルブを取り付けなくてはならない。
- オイルキャッチタンク・燃料キャッチタンク・ラジエターリザーバータンクは、走行前に空にしておくこと。
- 他のライダーに危険および迷惑をおよぼすような改造はしてはならない。
- 車両の音量は、99.0dB 以下でなければならない。測定時の気温が 10℃以下の場合、許容誤差+ 1dB が認められる。測定時の気温が 0℃を下回る場合は、さらに +1dB まで認める。測定方法は、排気口から 50cm 後方、45 度の角度で排気管と同じ高さで測定器を据える。排気口高さが地上より 30cm 以下の場合は、45 度上方で行う。そのときのピストンスピードは、4 ストローク 11m / s 2 ストローク 13m / s とする。（ページ下表参照、車検側のタコメーター基準）レース終了後は、+1db まで認めるが、転倒等やむを得ない理由によりマフラーが破損してしまった場合は競技長判断とする。また、音量測定時の仕様は出走時と同条件とし、極端にキャブセットや点火時期・マッピングを変更したり、カウルを外した状態での測定は認められない。共振音防止のための測定時の乗車は可。音量に関しては、走行中の音量をストレート脇にて測定する場合もある。注意を受けたライダーは次走行までに対策を施す事。
- ラジエターを装着している全ての車両は、転倒時に内容物が漏れ出しにくい構造のリザーバータンクまたは、キャッチタンク（100cc 以上）を転倒時に影響のない場所に強固に取り付けなければならない。ラジエターに不凍液が入っている場合は、水または水とアルコールの化合物にとりかえておく事。サーモスタットの取り外しは可。
- キャブレターからのオーバーフローパイプには、透明または半透明のガソリンキャッチタンク（100cc 以上）を転倒時に影響のない場所に強固に取り付けなければならない。
- マフラーはリヤタイヤ後端の垂線より大きく後ろに突出してはならない。
- ゼッケンの字体は、ゼッケンベース枠内に明記し、走行前車検で合格となった物のみ使用可。（ゼッケン色に関しては第三章参照）
- F/R アクスルシャフトの固定はロックナットまたは割りピンを使用すること。アクスルシャフト及びスイングアームピボットボルトにアルミ・チタン・マグネシウムを用いる事を禁ずる。
- 互換性が認められているクラス以外の車両は、原則として原動機型式およびフレーム型式の異なる車両の部品を使用することが出来ない。（型式とは、メーカーが定めた機種に属する原動機番号、フレーム番号を言う）部品番号が同一のものであれば使用可。例）NSR-50 の車両に NS50-R、NS-1 の部品は使用不可 / 94NSR-50 の車両に `95NSR-50 の部品は使用可 T2M-50R の車両に TZR-50 の部品は使用不可 / 年式により異なる原動機番号を持つ本体・部品は、同車種フレームに限り使用を認める。ただし例外として、NSR50・mini/NS50R・F/NS-1/CRM50/MBX50（6速）のクランクケースに関しては、部品の互換性を認める。加えて NSR50 と NSR80 のフレームの互換性を認める。また、GROM 及び MSX125 の他年式間での部品の互換性を認める。

19. 全クラスに関して、レース終了後購入希望者が発生した場合、**入賞車両**は外装関連を外した状態で定価を上回らない価格で**協議の上売却**しなければならない場合がある。
参考価格…SP・インポートミニ=上限 80 万円台

20. エンジンオイルやフォークオイル等、油脂類の変更及び使用量の調整は可。

21. チェーン駆動車両の**チェーンカバーの取り外し**は、フロントスプロケット側、リアスプロケット側のどちらに関しても**不可**。
ただしその機能を満たす同一形状のものへの変更、もしくは、リヤフェンダーがチェーンカバーの機能を完全に満たしている場合は可。

22. チェーン駆動車両のスイングアーム下側には、チェーンと**リヤスプロケット噛合部**をカバーする強固な**ガード**を取り付けること。
その際のスイングアームへの溶接・穴あけ加工は可。

23. ガソリン**タンクカバー**及び滑り止めを使用する場合は、走行中にずれたり外れたりしない様**強固に装着**する事。
ただし、タンク本体の状態を確認出来る様、脱着が可能である事。

24. 車体及び外装関連部品の塗装は可。改造変更が認められていないクラスの車体関連部品以外の**塗装、剥離、表面処理**等は**一切禁止**。

25. **ECU 本体の書き換えは不可**。また、その検査のために抜き打ちで ECU の交換を求める場合があるので注意すること。

26. 4st 車両でエアクリーナー BOX を取り外す場合は、耐熱性を満たした 200cc 以上のオイルキャッチタンクを装着する事。またエアクリーナー BOX 下部に排出穴がある場合は閉止する事。(クローズドブリーザーシステム)

音量測定時の主な回転数

クラス	SP/M		OPEN&S85		インポートミニ		スクーター全車	GROM
種別	2st	4st	2st	4st	<u>GSX-R125</u>	その他	-	-
回転数	9,400rpm	7,300rpm	8,800rpm	<u>7,000rpm</u>	<u>8,000rpm</u>	5,600rpm	走行中ストレートにて計測	5,700rpm

使用される測定器及び設定

下記の音量測定器は使用環境により精度のバラつきが見られる為、その都度キャリブレーターで確認のうえ音量測定を行う。サーキットごとに使用する測定器の周波数範囲が異なる可能性がある為、十分注意する事。

音量測定器……メーカー=シンワ ・モデル=デジタル騒音計(品番 78588) ・設定=Aレンジ /FAST/90~130db

キャリブレーター(校正)……メーカー=FUSO ・モデル= CENTER326

タコメーター……メーカー=マザーズツール ・モデル=MT-600 ・主要設定(車種により変更あり)=CYC2/1PISTON モード

2-2 各クラス付則

Mクラス

原則

車両の排気量は2st500cc未満、4st1000cc未満とする。例外としてKSR110・GROM125(HRC仕様含む)の参加を認める。ピストンはメーカー純正であっても、オーバーサイズの使用は禁止とする。なお、戦力バランス等考慮しシーズン中に規則が変更される場合がある為、当該規則には注意する事。

1. 車体 / 総合

1. フレームの改造・変更は不可。ただし、走行中に路面と接触する部分がある場合は、最低限の切除が認められる。NS50-Fのメインフレームカシメ部の溶接による補強は可。
2. ステーの削除、改造、およびメーターやゼッケン、カウル、シートやステップ固定のためのステーの追加及び改造は可。ただし、どの場合も先端は丸みを帯びた形状である事。
3. ハンドル切れ角調整のための改造、パーツの追加は可とするが、その場合のハンドル切れ角は最低30°以上を確保する事。
4. ハンドルバー及びクランプ、トップブリッジの改造・変更は可。また、ステアリングステムベアリング及びベアリングレースの改造、変更は可。
5. ステアリングダンパーの使用は可。ただし、ステアリングストッパーとしての兼用は不可。
6. ステップバー及びペダル、ステップホルダー、ポジションプレート、リンクなどの改造・変更は自由であるが、容易に操作できる位置でなければならない。形状は総合規定4にしたがって処置されている事。
7. ガソリンタンクは、市販時の状態の物で改造・変更は認めないが、タンクカバーの使用、フューエルコック、ホース及びブストレーナー追加、給油口の改造・変更は可。ただし、総合規定23を満たしている事。
8. 転倒時のダメージを軽減する為の、アクスルガードやプロテクティブコーンの使用は可。ただし、いかなる場合も先端が丸みを帯びた形状であり、ボルト・ナットが緩まない適切な処置を施してある事。(総合規定-17参照)
9. メーターの追加、改造、変更、取り外しは可とし、それに伴うセンサーやケーブルの追加や取り外しも可。また、ラップタイマーやデータロガー、GPS等の装着も可とするが、脱落無き様強固に取り付け、走行の支障をきたさぬ様注意する事。ただし、メーター関連部品のバッテリーを該当部品以外(イグニッション等)に使用する事は認められない。走行中の車両から情報を得る行為(無線やテレメトリーの使用)は不可。
10. ボルト・ナットの変更は可。ただしアクスルボルト、スイングアームピポッドボルト及びエンジン内部については不可。アルミやチタン製のボルト・ナットをエンジン関係(マウント含む)とプレーキ関係に使用する事は、(プレーキフルード系統、ドレーンボルト、L/Rクラッチケースカバーは除く)安全を考慮し全て不可。チタンを使用したパーツはハイコスト化に繋がるため制限される場合がある。使用及び作成の場合は要確認の事。
11. フレームやマフラーなどにおける、クラックや破損部分の補修加工は可。ただし、性能向上を目的とした物は不可とし、その判断は主催者に一任するものとする。
12. NSR50/miniとNSF100の、エンジン関連以外の部品の互換性を認める。
13. NS50-F/Rの部品の互換性を認める。また、左記車両とNS-1、ape100、XR100-M/Rの車体関連部品の互換性を認める。(タンク・ホイールを含む)
14. スイングアーム後端の、チェーンアジャスターボルトの不要部分の切除及びチューブ等を用いての保護は可。またリアフォークエンドキャップの変更は可。

2. 外装

1. カウルが市販時に装着されている車両の、社外品への交換は可。ただし、スクリーンを含むカウルの取り外しは不可。NS50-Fのフロントカウルの取り外しは可。また4st車両のエンジン下部には、故障時等のオイル飛散に対応する為、そのエンジンに使用されるオイルの全量分を保持できるオイル受けを装着する事。(右図参照)この底面には、ウェット時に対応する為の水抜き穴の加工を施し、ドライの場合はグロメット等を用い漏れに対し有効な閉止処理を施す事。シートスポンジ・シートカウルの改造、変更は可とするが、転倒等の衝撃に耐えうる様強固に取り付けられている事。

2. フロントフェンダー・リアフェンダーの改造・変更は可。取り外しは、リアフェンダーは可とし、フロントフェンダーは、フルカウル装着車両のみ可とする。

3. サスペンション

1. フロントサスペンションの変更は不可。ただし、内圧調整のためのトップキャップバルブ、イニシャルアジャスター、ストロークセンサー、インナーパーツ(シートパイプ・スプリングなど)の改造・変更・追加及びボルトオンスタビライザーでの補強は可。また、ダストシールの変更・取り外しは可。
2. フロントフォークインナーチューブは、一般市場価格にて純正品より安価なものに関してのみ変更を認める。ただし、純正同一形状及び同材質に限り、追加は一切禁止。
3. リアサスペンションの変更は可。また、取り付けに伴うアダプターの使用は可とするが、十分な強度を持った物である事。また、リアサスペンションとマフラー間における遮熱板の追加・ストロークセンサーの追加は可。
4. NS50-F/RとXR100M、APE100 Type-Dのボトムケースの互換性を認める。

4. ホイール・タイヤ

1. ホイールアッセンブリーの変更は不可。ただし、スピードメーターケーブル関連パーツおよびダストシールの取り外しは可。
2. ホイールサイドカラーの改造、変更は可。ただし、ベアリングディスタンスカラーの変更は不可。
3. ホイールエアバルブ及びバルブキャップの変更は可。
4. タイヤは一般公道走行可能タイヤとして市販されていて、通常ルートで購入出来る物のみ可。試作品など通常品とは異なるタイヤの使用は不可。スリックタイヤおよび摩耗限度を超えた物、グルーピング(溝ざり、カッティング)したものは不可。なお以下のレース専用タイヤに限り使用を認めるが、他クラスでの現状も考慮し公平で自由な競争を保つため今後変更される可能性がある。(S01/S02・BT601SS Wet・KR337・TT72・KR345・KR410・12inch車用レインタイヤ等)17インチ車両で12インチ車両と混走するクラスに参加する場合は、レーシングレインタイヤの使用を認める。タイヤワックス剥離の為の、パーツクリーナー、アセトン、ホワイトガソリンの使用は可とするが、タイヤの性能や状態を故意に変更する(タイヤソフナーなど)処理は不可。

5. ブレーキ

1. ブレーキレバー(総合規定-3の適合品)、パッド・シュー、ブレーキオイル、ブレーキホース、パンジョーボルトの改造、変更は可。
2. パッドスプリングの取り外しは可。また、パッドピンプラグの取り外しは可とするが、安全上装着されている事が望ましい。
3. キャリパーガード・マスターシリンダーガードの取付け、及びそれに伴うボルトの変更は可。
4. リアマスターシリンダーホースとオイルタンクが一体形状となるリザーブタンクレスキット及び、それと同等の機能を満たすパーツの装着は可。
5. ディスクローターは、一般市場価格にて純正品より安価なものに関してのみ変更を認める。ただし、純正同一形状及び、同材質に限り、追加は一切禁止。(フローティングディスク等は不可)
6. NSF100,NSR50/mini,NS50-F/Rの部品のブレーキ関連部品の互換性を認める。また、それに伴うディスクローターオフセットカラーの使用は可。

エンジンオイル受け例

(オイル受け図はMFJ競技規則を流用)



6. チェーン・スプロケット

1. F/R スプロケット・F スプロケットボルト及び固定方法、ドライブチェーン及びチェーンサイズの変更は可。

7. 電装

1. リミッター・CDI・レギュレーター・ワイヤーハーネスの改造・変更は可。ただし、純正時に備わっていない機構が追加される物は一切不可。(電圧増幅装置、シフター等)ワイヤーハーネスの改造に伴う、不要部品の取り外しは可。(スタンドスイッチ、ブレーキスイッチ等)ただし、ニュートラルスイッチスペーサーに関しては不可。メインキーを取り外す場合は、誰でも容易に確認・操作出来るキルスイッチを装着する事。

2. バッテリーの変更、取り外しは可。また、不要なステーターコイル(充電用)及びコイルベースの切除、取り外しは可。NSR50/Mini 純正のステーター COMP 廃番に伴い、当該部品の社外品への変更を認める。(POSH 補修用点火コイル等)ただし、そのコイルベース及び巻き数は純正品同等とし、性能向上を目的とした改造、変更は一切不可。また、補修やアーシングを目的としたステーター COMP に付随したハーネスの改造、変更は可とし、それに伴うステーターベースの切削加工は可。ただし、ステーターベース固定穴の長穴加工は不可。メインハーネス内にバッテリーが含まれる場合は、必ず純正の充電ステーターコイルによってそのバッテリー全量分の充電が可能である事。

3. スパークプラグ、プラグキャップ、プラグワッシャ、プラグコードの変更は可。ただし、イグニッションコイル本体の変更は不可。

4. NSR50/mini、NS50R/F、NS-1 のイグニッションコイルの互換性を認める。また、NSF100、XR100M/R、APE100 Type-D、CRF100 の電装関連部品の互換性を認める。

5. インジェクション仕様車の燃料及び点火時期、レプリミット調整を目的とした部品(フルコン、サブコン等)の使用は可。

8. エンジン関連

1. 始動機構(セルモーター・キックスターター等)と、それらの関連部品の取り外しは可。

2. 2st 車両における分離給油のオイルポンプ(オイルタンク等の関連部品を含む)の改造、変更、取り外しと閉止処理は可。

3. 熱対策を目的とした AC ジェネレーターカバー(L クランクケースカバー)の改造、変更は可。クランクケースとの間にカラーを追加する場合は、安全性を考慮し厚さ 5mm 以下のこと。

4. クランクケースからブリーザーホースが出ている場合は、200cc 以上のオイルキャッチタンクもしくはそれと同等の機能を満たす物を装備してはならない。なお、その際使用されるホース及び本体は、高温にも耐えうる材質を考慮する事。ブローパイガスについては、吸気への循環方式とする。

5. エンジンを整備する際の、バルブの擦り合わせやシートカット及びバルブのリフェース加工(4st)、バリ取り、アタリのボカシ等最低限必要なメンテナンスは可。ただし、出荷時本来の形状を崩す様な加工は一切不可。追加のホーニング処理及び、鉄ヤスリ、砥石およびリユーター等を使用した加工は厳禁とする。パーツリストで COMP となっているパーツの、分解及び組み換えは改造とみなし不可。ただし、パーツリスト上で部品が単品でも発注出来る部分は交換可。その場合は、同一年式のパーツ同士で組み付けの事。(例 NSR50'88 クランク等)

6. クランクケースベアリングの接着及びボンチ等による固定処理は可。ただし、処理が認められる箇所はベアリング外周接触部及びベアリング圧入部外側とし、ベアリングクリアランス調整を兼ねる加工は一切不可。

7. ラジエーター改造・変更は可とし、それに伴うホース関連やステー、ラジエーターキャップの変更は可。また、ラジエーターシュラウド、サーモスタットの追加や取り外しは可。エンジンやキャブレター冷却を目的とした、ダクトやディフューザーの追加は可。

8. クラッチプレート、フリクションディスクの改造、変更は可。また、クラッチスプリング、クラッチセンター(クラッチボス)の改造・変更およびクラッチプレート、フリクションディスクの枚数の変更は可。4st 車両に関しては Ape50 のクラッチ関連パーツの流用を可とする。クラッチハウジングの段付き修正(ヤスリがけ)は、メンテナンスの範囲とみなし可。ただし、その場合処理が認められるのはフリクションディスク接触面のみとする。

9. KSR110 に限り、クラッチ関連パーツ全ての改造、変更を認める。

10. ホンダ NSF100、XR100-M/R、APE100 (Type-D)、CRF100 のエンジン、マフラー、キャブレター関連部品の互換性を認める。ただし [シリンダー 12100-436-000] の使用は不可。(スカートを除くシリンダーハイトが※ 69.75mm 以下の物) ※測定環境等による -0.1mm の誤差は許容範囲。

11. NSR50、NSR-mini、NS50-F/R のエンジン関連部品の互換性を認める。ただし、ミッションについては不可。腰上に関するても下記組み合わせ表に沿って組み付けの事。

12. レギュレーションにて明記されていないパーツの互換性については、同一部番(最終統合先部番)のものであれば可。

13. 2ストローク車両のガスケット関連の改造、変更及び枚数の変更は可。ただし、シリンダーヘッドガスケットに関しては変更不可。

14. NS50-F/R に関しては下記表以外の純正部品の組み合わせを認める。また、それに伴うシリンダーヘッドガスケットの改造、変更及び枚数の変更は可。

15. タコメーターギヤの取り外しと、それに伴う閉止処理は可。

16. 2ストローク車両のピストンにおける、セカンドリングのエキスパンダの取り外しは可。

17. 2ストローク車両のバランスアイドルシャフトにおける、バックラッシュギアの改造、取り外しは可。

18. 2ストローク車両の他年式パーツ流用時における、クラッチリフターロッドの改造は可。

19. 2ストローク車両のバランスシャフトに COMP. におけるベアリングの交換は可。
ただしその際のベアリングは純正同一品とする。(NTN6203)

NSR50/NSRmini/NS50-F/R の 腰上組み合わせ表(部番末尾)

	組み合わせ 1	組み合わせ 2
シリンダーヘッド	GT4-000	GT4-010 GT4-970
ヘッドガスケット	GE2-000 GE2-003 GE2-013	GAA-003
シリンダー	GT4-000 GT4-710	GE4-000 GE4-710 GE4-970

9. 吸気関連

1. キャブレターは、ジェット類、ニードル等のセッティングインナーパーツの変更、およびインテークチャンバーの取り外しと、その後の閉止処理のみ可。

2. エアクリーナーボックスおよびエレメント、クーリングダクト、キャブガードの改造、変更、取り外しは可。ただし、密閉されたラムエア BOX の使用は不可。

3. エアファンネルの取り付けは可。ただし、キャブレター本体を無加工で取り付けられるものに限る。

4. スロットルワイヤー及びスロットルグリップ(ハイスロ KIT 含む)の改造、変更は可。

5. マフラーに関しては、車体-11、エンジン関連-11SP12 (SP-F/SP-MID) クラス 2st 車両規則を参照。

6. YAMAHA TZM50R TZR50R RZ50 について、キャブヒーティング機構の取り外し(ホースのみ)と、その後の処理を認める。

7. インレットパイプ及びインシュレーター(ガスケット含む)における、純正他年式間での組み合わせは自由とする。

8. 2st 車両のキャブレターの社外品への変更及びそれに伴うスロットルバルブ、インテークマニホールドの変更を認める。ただし、その場合のベンチュリー径は 20 φ 以下とし、追加加工を施すことは禁止とする。(PE20/PC20/VM20 等)VM20 取付にあたってのスタッドボルト干渉部分の最小限の切削加工を認める。

**上記に記載されていない改造、変更は一切不可とし、その他に関しては変更が認められた各クラスの規定を遵守する事。
純正部品においては、パーツリスト記載の部品番号によって市販されている物を使用すること。(ベアリング等)**

SP クラス 2st 車両

★ミッション付 2ストローク 50cc 準改造車で、各クラスの最低重量を満たした車両。
上記に加えチャンパーを社外品へと変更していない、KSR80 の参加を認める。

1. マフラーの改造・変更可。ただし、総合規定 12 の適合品である事。
 2. サイレンサーは、リヤタイヤ後端の垂線より後ろに突出してはならない。なお、テールエンドパイプは原則として水平を基本とし、その後端部の板厚は 2mm 以上である事。
- 上記以外の改造・変更については、総合規定・M クラス規定に準ずる。

SP クラス 4st 車両

★ミッション付 4ストローク 100cc 準改造車で、各クラスの最低重量を満たした車両。
(NSF100/Ape100/XR100M 及び NSR/NS50R ↔ XR100M エンジン 4st コンバート仕様車 GROM など)

1. キャブレターの社外品への変更及びそれに伴うマニホールドの改造、変更は可。また、ジェットやニードル、スロットルバルブの改造、変更も可。また、M クラス規定 9. 吸気関連-3 を満たしている事。ただし TM キャブシリーズの吸気側脱着可能部分に関しては、パーツとみなし改造、変更を認める。
2. NSF100 純正キャブレター (PD22) 使用車に限り、ハイカムの使用を認める。ただし、その場合はカムホルダー、ロッカーアーム等ヘッド周りのパーツを無加工で取り付けられる物である事。バルブタイミング調整を目的としたカムプロケットの最小限の長穴加工は可。PD22 のチョークバルブの取り外し及びその取付穴の閉止処理は可。また、PD22 を使用する場合のインテークマニホールドの改造、変更は可。PD22 の国内純正仕様品にのみ装着されている、メインジェットホルダー (16168-382-014) の取り外しは可。
3. イグニッションコイルの改造、変更は可。
4. スパークプラグ及びプラグコード、プラグキャップの改造、変更は可。
5. フライホイールの改造、変更は可。ただし、加工する際は最低限の耐久性を損なわない様十分注意する事。安全性を考慮し、フライホイール外周肉厚が 9.5mm 以上で、側面においては純正状態との高低差が 5.5mm 以内であること。ステーターコイルに関しては、M クラス規定 7. 電装-2 を参照。
6. オイルクーラーの装着は可。またそれに伴うヘッドカバーおよびクラッチケースカバーの改造、変更は可。なおその際使用するホースは、耐熱、耐油性を満たした物で、ホースバンド等でしっかりと固定する事。
7. オイルポンプの改造、変更は可。また、オイル通路の拡張及び閉止加工は可。
8. クランクケース内圧コントロールバルブの使用は可。
9. L クランクケースカバー (AC ジェネレーターカバー) の改造、変更は可。またクランクケースに関しては、エンジン換装時にフレームとの干渉を避ける為の最小限の切削を認める。
10. 2st 車両のフレームに 4st 車両のエンジンを換装する際は、それに伴うエンジンブラケットやステーの追加を認める。ただし材質にチタンを用いる事は不可。
11. フレームは原則的に出荷時の状態を基本とするが、エンジン換装やクラック対策に伴う最小限の追加加工を認める。
12. SP17 車両のドライブチェーンスライダの改造、変更は可。また、チェーンテンショナー機構の追加も可。
13. GROM にて参戦する場合は、上記に加えインジェクター位置の変更を認める。ただし、インジェクターの個数は 1 個とする。また、ECU のサブコン / フルコンの使用は可。
14. SP17 車両に関しては、上記 2 の規則に則ったハイカムを使用する場合でも、ベンチュリー口径 22 φ 以下の社外キャブレターの使用を認める。
15. マフラーは総合規定 12、15 の適合品である事。

関東ロードミニ選手権 SP クラス特別追加規則

下記規則は戦力バランスを考慮しシーズン中に変更される場合があるため注意する事。

1. ライトウエイトライダーにおけるウエイト過装着措置として、合計重量が 118kg 未満の場合は、追加のウエイトを装着していない M クラス車両の参戦を認める。
2. 4st 車両使用者で合計重量が 118kg 以上の場合は、上記 1. に加えマフラーのみを交換した車両の参戦を認める。
3. 4st 車両使用者で合計重量が 150kg を上回る場合、ハイカムを使用する場合でもキャブレターベンチュリー口径 22 φ 以下の社外キャブレターの使用を認める。
4. 4st 車両使用者で合計重量が 160kg を上回る場合、上記 3. のキャブレターベンチュリー口径は自由とする。
5. 4st 車両で SP-F/SP-MID へ参戦する場合は、合計重量に関わらず上記 3. に加えてフェューエルタンク・ステアリングステム・アクスルシャフト・ホイール・ブレーキ関連・スイングアーム及びスイングアームピボットボルトの改造、変更を認める。ただし、総合規定 2、17、23、M クラス規定 1. 車体-3 の適合品である事。
6. 2st 車両使用者で合計重量が 140kg を上回る場合は、M クラス規定 8. エンジン関連-14 の変更を認める。
7. 当特別規則は軽量ライダーのウエイト追加を減らし、重量のあるライダーのハンデを埋める事を目的とするだけでなく、純正廃盤パーツの社外品互換性などのテスト及びそのパーツのリユースバリューの確保を担っている。したがって本来ウエイトを搭載する必要のない 2st=125kg/4st=128kg 以上のライダーが追加のウエイトを搭載する行為は認められず、違反のあった場合はペナルティの対象となる。

S85&MINI GP サテライトクラス

- ◆ S85 = 2st85cc/4st150cc 未満の改造車及びまるち杯 OPEN、S1-GP 対象車。他車種のエンジン換装可。
- ◆ MINI GP サテライト = FIM MiniGP Japan 対象車

1. ミッションは 6 段以下とする。
2. マフラーに関しては、当規則総合規定 12、15 を参照。
3. 4st 車両はオイルキャッチタンクを装備し、ブローバイガスは吸気への循環方式を取る事。
4. 外装に関しては、M 規定参照。※ノーマルエンジンを維持した 4st モタード車両に関しては、オイルアンダートレーの装着を免除する。
5. メインキーを取り外す場合は、誰でも容易に操作可能なキルスイッチを装着する事。
6. スリックタイヤおよびレーシングレインタイヤの使用は可。ただし、限界磨耗度を越えた物や、グルーピングを施したものは不可。

インポートミニクラス

★4st ミッション付き 17インチ 125cc インジェクション仕様車（その他車両については要相談）

1. ハンドル / レバー / ステップ / ペダル等の、ポジション関連部品の改造、変更は可。また、それに伴う不要なステー、フレームの最小限の加工は可。
2. ブレーキに関しては、パッド / ホース / パンジョーボルト / F・R ディスクローターの変更とパッドスプリングの取り外しは可。また、キャリパー / マスターガード装着と、それに伴うボルトの変更も可。ただし、その場合のボルト材質は鉄 / ステンに限る。加えて F マスターシリンダーの変更も可とするが、そのピストン径は 9/16 (14.3mm) 以下とする。
3. フロントフォークのインナーパーツの改造・変更・追加は可。また、トップブリッジ、イニシャルアジャスター、スタビライザーの追加・変更は可。
4. リヤサスペンションの変更は可。また、それに伴うアダプターの使用やリンク及びリンクベアリングの改造・変更は可。また、ストロークセンサーの追加は可。
5. エアクリナー BOX の改造、変更、取り外しは可。また、それに伴うファンネルの使用は可。ただし GSX-R125 に関しては一切不可（エアフィルター含む）。取り外すエアクリナー BOX にブリーザーホースが通っている場合は、別途オイルキャッチタンクを取り付け吸気循環方式処置を施す事。
6. サブコンを用いた燃調及びレプリミットの変更は可。オートシフターに関してはメーカー純正品のみ取り付けを認める。GSX-R125 に関しては、WestPower(Special Agent) 製インジェクションコントローラー (Negotiator-I) の使用のみ可とするが、燃調以外のレプリミットや点火時期などの変更及びオートシフターの使用は不可とし、取り付けの際はイグニッションコイルへ配線を割り込ませないこと。また GSX 以外の機種でも点火時期の調整は不可とし設定は操作しないこと。(ドエルタイム含む)
7. スロットル / グリップラバー及び、スロットルワイヤー / クラッチワイヤーの改造・変更は可。ただし、スロットルボディ本体に関しては一切不可。
8. スパークプラグ、プラグキャップ及びイグニッションコイルの変更は可。
9. カウル / タンクカバー / フェンダー等の、フェアリング関連パーツの改造・変更は可。また、それに伴うステーの追加やフレームの最小限の加工を認める。アンダーカウルはエンジン故障時に備えオイルトレイ形状になっていること。
10. マフラーの変更は可。ただし当規則総合規定 12 を満たしている事。純正で O2 センサーが装着されている場合は、純正ハーネスを無加工で取り付けられる位置に取り付けの事。
11. チェーン及びサイズ、アジャスターの変更は可。またスプロケットの変更は可。F スプロケットカバーの改造・変更は可とするが、安全性を満たしていないものは不可。
12. タイヤは一般市販されていて通常ルートで購入できるもののみ可とし、レインタイヤの使用も可。ただしスリックタイヤ、グルーピング及びカッティング、試作品など通常品とは異なるタイヤの使用は不可。R11 の使用は可とするが、ST600 用 R11 の使用は不可。2021 年最終戦にて使用タイヤとその主張に問題があり、現状では公平な競技の維持が困難となったため、KR410 及びダンロップタイヤの使用は不可とする。(レインタイヤ含む)
13. クラッチスプリング、フリクションディスク、クラッチプレート等の改造、変更は可。
14. 燃料ポンプの改造、変更は可。
15. 戦力バランスを考慮しアブリリア RS4 のみ 150cc までのボアアップを認める。
16. ラジエターの改造、変更は可。またそれに伴うホース関連やステー、ラジエターキャップ、ラジエターシュラウドなどの改造、変更及びサーモスタットの取り外しは可。
17. YZF-R125 と R15 における、給排気バルブの互換性を認める。
18. GSX-R125/150 及び YZF-R125/150 間での F/R ホイール Assy の互換性を認め、各所カラーやダストシールなど関連部品の改造・変更・追加・取り外しは可。ただし、ベアリングディスタンスカラーの変更は不可。
19. メインハーネスの改造・変更及び走行に不要なセンサーやパーツの取り外しは可。ただし出荷時に備わっていない機能の追加や性能向上を目的とした改造は不可。データロガー及びそれに付随したセンサー・メーターの追加は可とするが、メインハーネスに配線を割り込ませない事。バッテリーの変更は可とするが、純正品同等の容量である事。
20. ライトウエイトライダーにおけるパワーウエイトレシオを加味した出力制限に関しては、付録の別紙 1 を参照。
21. 戦力バランスを考慮し KTM RC125/DUKE125 は上記に加え以下の改造、変更、追加を認める。
 - ・ ECU フルコンピューター
 - ・ F/R ホイールと関連部品
 - ・ シートレール
22. EXP クラスのみ、より精度の高い戦力バランスを考慮し、上記に加え以下の条文を追加とする。
 - ・ GSX-R125 のサブコンの使用は不可。
 - ・ タイヤメーカー及びホイールリム幅の違いによる使用可能タイヤとその問題の過熱化（ハイコスト化）を考慮し、使用リヤタイヤは全車 140 サイズのみとする。(レインタイヤ含む)

なお当クラスは発展途上の為、各機種の戦力バランスを考慮しシーズン中に何らかの規則が追加される場合があるためあらかじめ注意する事。上記以外の改造及び変更は一切不可とし、判断が難しい場合は都度競技長へ確認の事。

トライアウトクラス

★2st50 ~ 100cc、4st50 ~ 155cc の市販車。(KIDS バイク不可) CR85 や CRF150 等レーサー車両及びそのエンジンを使用しての参加は出来ない。当規則 2-1 総合規定に準じた車両である事。

参加対象の目安は、第一章の開催クラス表を参照。
ゼッケンに関しては、第三章参照。

ノービスミニクラス

★桶川スポーツランドミニバイクスポーツ走行規定に準ずる車両。当規則 2-1 の総合規定を満たしていることが望ましい。(KIDS バイク不可)

基準タイム超過ペナルティーの公平性と安全性を保つため、レース当日は走行中に確認が可能なラップモニター及びサインボード等でラップタイムを確認することを禁止とし、違反があった場合はペナルティーの対象となる。ゼッケンに関しては第三章参照。

OKEGAWA GROM Cup

★当規則 2-1、総合規定に準ずる HONDA GROM。市販車 / レースベース車ともに参加可能。

ただしボアアップ、圧縮比 UP、ハイカムの使用など、エンジン内部の改造は不可。レインタイヤの使用は可。

第三章 ゼッケン

1 クラス別ゼッケン色と固定ゼッケン制

ゼッケンは、クラスが同一の場合年間通して同一ゼッケンとする。(固定ゼッケン制)

参加する車両は、必ず指定された色のゼッケンを使用しなければならない。

ただしダブルエントリーで車両が同一、ゼッケンナンバーが同一の場合はどちらかのクラスに統一しても可。それ以外の理由でゼッケン色を変更できない。

前年度ポイントランキングにてランキングが赤ゼッケンになっているライダーは、いかなるクラスであっても赤ベース白文字の上位者ゼッケンを使用する事。

また、ゼッケン色が自由になっているクラスでも、視認性の悪い物は認められない場合がある為、事前にオフィシャルに確認の事。

その他ゼッケンに関する規定は、第二章 車両規定 総合規定の 15.16. を参照

ゼッケン指定色

クラスまたは該当者	ベース色	文字色	クラスまたは該当者	ベース色	文字色
EXPクラスの赤ゼッケン保持者	赤	白	HRC GROM Cup	黒	白
SP-EXP、インポート EXP	白	黒	トライアウト	青	白
SP-MID	黒	白	OKEGAWA GROM Cup	黒ベース白文字以外	
SP-F	緑	白	それ以外のクラス	自由 (赤ベース、視認性の悪い色は禁止)	

※ダブルエントリーで同一車両の場合には一方のクラスに合わせる事。

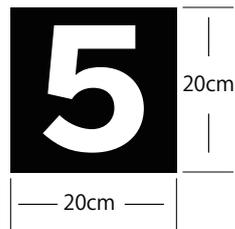
2 赤ゼッケン

EXP クラス年間固定ゼッケン総登録者数の上位 10%分を赤ゼッケンとする。(10 台以上ー 1 台 /20 台以上ー 2 台・・・最大 10 位まで)

ポイントランキング表の順位欄が反転色になっている選手は、いかなるクラスでも赤ベース白文字の上位者ゼッケンとなるので注意する事。

なお、ポイントランキング順位欄に★印の付いているライダーが当該クラスに参戦する場合、上位者優先パドックを使用する事が出来る。

ゼッケンの例



ゼッケンベースは、縦横 20cm 以上の物をアッパーカウルとシートの両サイド、合計 3ヶ所に設けなければならない。

ただし、やむをえない場合は走行前車検にて合格となったもののみ使用可。

市販カウルの小型化に伴い、アッパーカウル・シートカウル上面の 2 点と、車両側面 2 面へのゼッケン表示 (サポートゼッケン) も可。



ゼッケンの例



サポートゼッケンの例

使用できないゼッケンの例 耐水性を満たしていないもの、極端に反射するなどして見づらいものも認められないため注意してください。

ふちがベース色?

ふちの色はベース色として見なしません。



見えない

蛍光色や近似色などの配色は禁止します。



わかりづらい

極端なデザイン文字はわかりづらい。



小さすぎる

文字サイズが小さい (10cm 以下など)



破損している

破れているものは使用できません



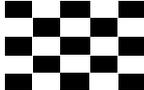
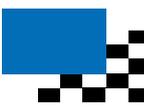
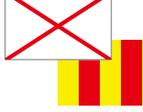
紛らわしい

ゼッケン NO. らしい数字が並んで配置されているのは ×



当規則書に記載されていない事項については、競技長判断および MFJ・FIM 規則に則り運用するものとする。

フラッグの意味と対処

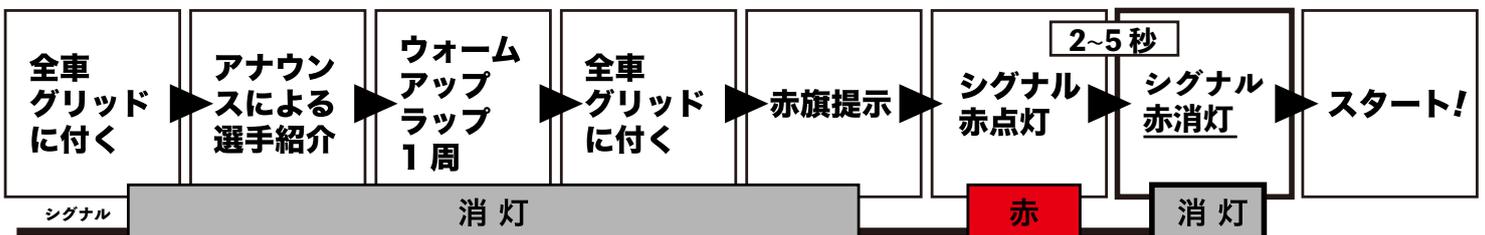
国旗	チェッカー	黄旗(イエローフラッグ)
 <p>レーススタート。 (通常シグナルで示す。 レッドシグナル消灯)</p>	 <p>レース終了またはプラクティスセクション(公式予選等)の終了。 ※ショートカット路を使用してピットイン。</p>	 <p>前方コース及びコースサイドに障害物やその他危険な状態であることを示す。減速、停止準備、追い越し禁止。</p>
赤旗(レッドフラッグ)	黒旗+白文字ナンバーブラックボード	オレンジボール旗+白文字ナンバーブラックボード
 <p>競技中断。すべてのライダーは低速で最大限の慎重さと注意を持ってそれぞれのピットに戻る。 ※ショートカット路使用可。</p>	 <p>当該ライダーに速やかにピットインの指示を示す。 ※ショートカット路使用不可。</p>	 <p>当該ライダー自身、及び他のライダーに危険を及ぼす可能性があり、速やかにコースから離脱し安全な場所に停止しなければならない。</p>
青旗(ブルーフラッグ)	青旗+チェッカー	緑旗(グリーンフラッグ)
 <p>後方よりペースの速い車両が接近し、追い越される状態にある。</p>	 <p>ファイナルラップにフィニッシュラインの手前でトップライダーの直前に他のライダーが走行している場合、トップのライダーはチェッカーを意味するが直前を走るライダーはもう1周することを示す。</p>	 <p>レース以外の走行の1周目に各ポストで表示される。ウォームアップラップのスタート合図。</p>
赤ストライプ付黄旗	レッドクロス(赤い斜め十字の入った白旗)	レッドクロス+赤ストライプ付黄旗
 <p>雨以外の理由でコース表面が滑りやすい状態。(オイルや落下物がある可能性も含む)</p>	 <p>コース上において、雨が降り始めたことを示す。</p>	 <p>コース上において、雨が降り続けていることを示す。</p>
ライドスルーボード	 <p>初心者対象クラスであっても各旗は出ることがあります！適切な対処ができるようにしましょう</p>	
 <p>当該ライダーは、レース中、ピットレーンを通して通過するよう指示される。途中、停止することは認められない。通過後、当該ライダーはレースに復帰することができる。ライダーはピットレーン速度制限を遵守しなくてはならない。</p>		

出典、引用 MFJ 競技規則書

スタート方式に関して

コース中央にあるシグナルを使用してのスタートとなります。

ジャンプスタート(フライング)があった場合はライドスルーもしくは競技結果30秒加算のペナルティを課します。



SPクラスの重量規制やHRCトロフィーのJr/大人のクラス分けと同様に、インポートミニクラスでもマシンとライダーの合計重量が平均を大きく下回る場合を考慮した新ルールを設置する事となりました。以前よりインポートミニの規則にある、戦力バランスを取るための追加規則となりますので予めご了承下さい。前回のレースデータをもとに考案された追加規則の内容は以下の通りとなります。

表1).関東ロードミニ選手権2021第2戦 入賞者重量データ

※ps=馬力 ※PWR=パワーウェイトレシオ

クラス	ライダー	マシン	マシン重量	装備重量	合計重量	推定馬力	※PWR
EXP	S選手	YZF	114	76.1	190.1	14	13.6
EXP	O選手	YZF	112.6	74.3	186.9	14	13.4
EXP	M選手	GSX	118.2	75.7	193.9	14.5	13.4
EXP	K選手	YZF	112.8	63.8	176.6	14	12.6
EXP	I選手	GSX	113.9	73	186.9	14.5	12.9
EXP	F選手	GSX	115	81.3	196.3	14.5	13.5
MID	T選手	YZF	114.9	81.7	196.6	14	14.0
MID	I選手	GSX	114.6	70.9	185.5	14.5	12.8
MID	E選手	GSX	113.2	80.1	193.3	14.5	13.3
MID	Y選手	GSX	113.8	81.5	195.3	14.5	13.5
MID	K選手	YZF	114.6	79.7	194.3	14	13.9
MID	I選手	YZF	113.8	78.5	192.3	14	13.7
平均			114.3	76.4	190.7	14.3	13.4
以下ユースライダー							
EXP	K選手	GSX	119.2	39	158.2	14.5	10.9
MID	A選手	GSX	114	51.1	165.1	14.5	11.4

上記表1).の通り、成人入賞者の平均値と比較するとユースライダーのパワーウェイトレシオ(以下PWR)は数値が低く加速性能が良好である事がうかがえる。

その差を少し埋めるため、ユースライダーのPWRを成人入賞者の中で一番軽量だった数値にすると、A選手の場合… $165.1 \div 12.6 = 13.1\text{ps}$ ※となり、これを加味した出力制限をするとバランスが取れる計算となる。

実際の車両は何馬力なのか、A選手のマシンに3種類のマフラーを付けシャーンダイナモにて測定したところ、(・マフラーA=13.8ps ・マフラーB=14.2ps ・マフラーC=14.7ps) 実測出力の平均=14.2ps となり、全入賞車両の推定馬力の平均とおおむね変わらない数値となった。

これらの数値をもとに、ユースライダー(A選手)の出力をどれくらい調整すればバランスが取れるかを算出すると

実測出力 14.2ps	-	PWR加味出力 13.1ps	=	出力制限 1.1ps
----------------	---	-------------------	---	---------------

となり、約1馬力の出力制限が妥当な数値となった。

K選手の場合は $158.2 \div 12.61 = 12.5\text{ps} \rightarrow 14.2\text{ps} - 12.5\text{ps} = 1.7\text{ps}$ となり、約1.5～2馬力程度の制限が妥当と算出された。

上記を踏まえ、合計重量の数値に応じ以下の出力制限をかけインポートミニクラスの戦力バランスを調整する。なお出力制限には、当サーキット開発の純正エアクリーナー取付タイプの専用リストラクターを用いて行う。

表2). インポートミニ 合計重量に対するリストラクター(吸気制限)の仕様 ベータ版

合計重量	出力制限	リストラクター
149.0～155.9kg	-2.0ps	7～8穴仕様
156.0～162.9kg	-1.5ps	8～9穴仕様
163.0～169.9kg	-1.0ps	9～10穴仕様



合計重量が上記表の範囲にかかる参加者は、サーキットより支給される適合リストラクターを正しく装着すること。またその場合のエアクリーナーボックスは無加工の純正品とし、それに関連した改造・変更・取り外しなどは一切不可。

規則作成協力…

・シャーンダイナモ測定協力…モトアップ岩槻本店様/n-labo様 ・テストライダー…K選手・A選手 他 ・リストラクター作成…マスダエンジニア様

関東ロードミニ選手権2023 RIDING SPORT CUP ポイントランキング

表の見方 [0...ノーポイント / -... 不出場 / ★or☆...シリーズ表彰 / ★...2024年当該クラス優先ドック使用可 / No反転色...2024年赤ゼッケン該当者] ※ 計算方法については23レギュレーションをご覧ください。
 ※完走扱いの周回数 [12周の場合9周、8周の場合6周]

OPEN&S85

順位	No	氏名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	合計
★1	69	大澤 一欽	7.5	7.5	7.5	7.5	7.5	15	52.5
2	74	濱野 義和	10	10	10	10	10	0	50
3	41	菅原 清和	6	6	6	0	6	12.5	36.5
4	91	内海 孝太郎	-	-	-	-	-	25	25
5	4	武中 駿	-	-	-	-	-	18.75	18.75
6	4	丸山 和昭	5	5	5	-	0	-	15
7	65	岩倉 央長	-	-	-	-	-	10	10
8	47	中村 和臣	4	0	4	0	-	-	8
9	72	松井 仁	-	-	-	-	-	7.5	7.5

SP-MID

順位	No	氏名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	合計
1	87	知識 可穂	10	20	15	8	15	0	68
2	82	後藤 航	-	-	20	15	20	0	55
3	4	廣江 法夫	12	12	6	4	10	5	49
4	43	藤井 紀行	15	8	-	20	-	-	43
5	68	吉村 鎌太郎	-	-	8	3	6	15	32
6	3	清水 陽介	8	6	12	0	-	3.75	29.75
7	92	菅野 博菜	0	3	0	12	12	-	27
8	73	埜口 直希	-	-	-	-	-	25	25
9	88	知識 隼和	20	-	-	-	-	-	20
10	63	永山 昌之	-	10	0	10	-	-	20
11	2	青木 岳志	-	-	-	-	-	18.75	18.75
12	80	市川 友也	0	15	-	-	-	-	15
13	37	望主 健太	-	-	-	-	-	12.5	12.5
14	9	コ口 助	-	2	10	-	-	-	12
15	66	飯塚 隼翔	-	-	-	-	-	10	10
16	84	嶋津 圭太	-	-	-	-	8	-	8
17	28	守田 哲	4	4	-	-	-	-	8
18	1	谷澤 健二	-	-	-	-	-	7.5	7.5
19	71	垣内 直也	-	-	-	6	-	0	6
20	46	前田 孝宏	6	-	-	-	-	-	6
21	17	大橋 淳希	-	-	4	-	-	-	4
22	11	藤田 悠希	-	-	-	-	-	2.5	2.5
23	6	佐藤 俊平	-	-	-	2	-	-	2
24	95	蘇 勇太	-	-	-	-	-	1.25	1.25

OPEN&S85Jr

順位	No	氏名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	合計
1	56	富樫 虎太郎	10	10	10	10	-	-	40
2	70	真木 來人	-	-	-	-	10	9.375	19.375
3	67	中谷 健心	-	-	-	-	-	12.5	12.5
4	2	土井 陽希	-	7.5	5	-	-	-	12.5
4	15	松山 遥希	-	-	7.5	-	-	-	7.5
5	89	国立 和玖	-	-	-	7.5	-	-	7.5
6	88	知識 隼和	-	-	6	-	-	-	6

SP-EXP

順位	No	氏名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	合計
★1	1	富樫 虎太郎	20	20	20	15	20	25	120
★2	3	竹内 吉弘	15	15	15	12	12	2.5	71.5
★3	4	森山 漣	0	2	4	10	15	18.75	49.75
4	7	齋藤 康秀	-	-	12	20	-	15	47
5	5	小高 泰輝	12	10	0	6	0	12.5	40.5
6	2	海老名 輝悦	8	6	3	8	10	0	35
7	88	知識 隼和	1	0	8	4	8	7.5	28.5
8	41	市川 速人	3	0	6	3	4	10	26
9	44	吉田 称元	10	0	10	1	3	0	24
10	30	土井 陽希	0	4	0	0	6	5	15
11	10	佐々木 崇弘	2	3	2	-	2	3.75	12.75
12	56	菅井 文史	-	12	-	-	-	-	12
13	22	吉田 慎弥	0	8	-	-	-	-	8
14	9	河合 和喜	6	-	-	-	-	-	6
15	8	飯高 新悟	4	-	-	-	-	-	4
16	33	上垣 翔	-	-	-	2	-	-	2
17	84	橋本 誠	-	1	0	-	1	0	2
18	12	大橋 淳希	-	0	-	-	-	1.25	1.25
19	31	田村 嘉宏	-	-	1	0	-	-	1

HRC GROM Cup

順位	No	氏名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	合計
★1	88	蜂屋 弘美	20	20	15	20	-	15	90
☆2	73	宗 隆志	12	15	8	15	20	18.75	88.75
☆3	25	小原 裕好	2	12	6	10	6	10	46
4	9	渡辺 剛	-	-	10	12	15	0	37
5	33	納見 孝	8	-	2	8	8	7.5	33.5
6	43	杉山 海	-	-	-	-	-	25	25
7	83	安室 貴裕	-	-	-	-	12	12.5	24.5
8	6	木村 寛彦	3	10	3	4	2	0	22
9	97	荻原 裕大	-	-	20	-	-	-	20
10	7	阿部 忠孝	-	-	-	6	10	-	16
11	11	大橋 淳希	15	-	0	-	-	-	15
12	36	土谷 昌之	10	0	0	-	-	5	15
13	8	勝間 規真	6	-	4	3	-	-	13
14	21	長尾 健史	-	-	12	-	-	-	12
15	51	竹田 大輔	-	8	-	-	-	-	8
16	76	富岡 孝宏	1	6	0	-	1	0	8
17	32	鈴木 徹	4	0	0	2	-	0	6
18	37	林 篤志	-	-	-	-	3	2.5	5.5
19	19	中水流 克也	-	-	-	-	4	0	4
20	91	女屋 恵美子	-	-	-	-	-	3.75	3.75
21	3	大滝 勝	-	0	1	1	0	0	2
22	14	粕谷 健二郎	-	-	-	-	-	1.25	1.25

NSF100 HRCトロフィー

順位	No	氏名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	合計
★1	77	佐藤 義典	15	20	20	20	10	18.75	103.75
☆2	16	牟田 光宏	12	15	12	15	7.5	25	86.5
☆3	28	関本 治紀	10	12	8	10	-	15	55
4	32	野崎 泰介	20	8	15	0	6	-	49
5	21	田辺 尚志	-	-	10	12	-	12.5	34.5
6	6	新井 正義	6	10	6	8	-	-	30
7	92	永松 久二	-	6	4	6	-	7.5	23.5
8	68	森本 展嘉	-	-	3	4	5	10	22
9	80	所 諒太	8	0	-	-	-	-	8
10	39	松本 佳太	-	0	2	3	-	-	5
11	33	及川 祐治	4	-	-	-	-	-	4

インポートミニEXP

順位	No	氏名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	合計
★1	5	岡田 義治	20	20	20	20	15	-	95
★2	11	篠崎 真也	12	15	10	15	12	10	74
★3	74	小長谷 剛	-	12	15	6	8	3.75	44.75
4	3	竹之内 力也	0	3	0	12	10	18.75	43.75
5	39	斉藤 晴征	0	4	12	8	4	12.5	40.5
6	23	長谷川 聖	15	10	2	4	-	0	31
7	63	遠藤 瑛人	3	6	8	3	2	5	27
8	8	石戸谷 稔	4	-	4	10	6	2.5	26.5
9	47	曾根 信久	8	8	6	0	3	1.25	26.25
10	4	丸山 剛	-	-	-	0	-	25	25
11	44	大木 俊二	-	-	-	-	20	0	20
12	45	木内 尚汰	-	-	-	-	-	15	15
13	75	秋山 龍生	10	-	-	-	-	-	10
14	31	大木 英明	6	0	3	0	0	0	9
15	9	増田 純	-	-	-	-	-	7.5	7.5
16	12	小峰 豊	1	1	1	2	0	0	5
17	77	飯岡 正吾	0	2	0	0	0	0	2
18	14	福井 徹	2	-	-	-	-	-	2
19	2	今田 雅之	0	0	-	0	1	0	1
20	16	東郷 浩明	-	-	0	1	0	0	1

NSF100 HRCトロフィーJr

順位	No	氏名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	合計
★1	41	市川 速人	10	0	10	10	10	12.5	52.5
2	40	古川 幸太郎	7.5	10	6	5	-	7.5	36
3	95	蘇 勇太	5	6	7.5	7.5	-	9.375	35.375
4	81	張恩傑	4	5	5	6	6	-	26
5	83	本間 來人	-	7.5	-	-	7.5	-	15
6	93	宇野 将平	6	-	-	-	-	-	6

インポートミニMID

順位	No	氏名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	合計
1	3	伊沢 拓也	0	20	20	20	-	-	60
2	67	山岸 仁	2	4	12	15	20	-	53
3	42	友井 崇	20	0	10	6	6	3.75	45.75
4	72	伊達 和宏	-	8	-	-	12	25	45
5	91	宮田 将希	10	0	2	10	8	12.5	42.5
6	4	手島 一郎	15	15	-	-	-	10	40
7	10	田辺 智之	-	0	8	-	10	15	33
8	66	松井 仁	3	10	15	4	0	-	32
9	58	成田 正志	12	0	0	-	15	5	32
10	9	並木 崇泰	8						

追加または修正事項

レギュレーション発表後に変更等あった場合はその都度更新されます。

【追加・修正】インポートミニ車両規定 (2024.4.9)

3. フロントフォークのトップキャップがクリップ固定の機種に関しては、
関連部品の不用意な脱落を防ぐため適宜 C クリップを交換する事。
また、フォークスプリングの張力やイニシャルアジャスターの仕様には各自注意の事。

8. プラグコード を追加

18. ホイール Assy の互換性

↓
ホイール / メインフレーム / スイングアーム / フロントフォーク / ステアリングステムの互換性 へ修正
※共通部品のため

22. (レインタイヤ含む) → (レインタイヤ除く) へ修正
※今季開幕戦に雨天時での大きな性能差が無い事を確認できたため

【追加・修正】インポートミニ車両規定 (2024.8.13)

6.YZF-R125 に関してはソフトランディング型レブリミッターに伴う遅角制御の解除まで可。